

日本文化学部日本文化学科

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

(知識・技能)

- ① 語学や社会学、健康科学などの幅広い教養を身につけ、多文化を相互に理解し、多様な価値観を尊重することができる。
- ② 日本の宗教文化や芸能文化及び文学に関する知識を有し、思想と言語表現の成り立ちが理解できる。
- ③ 京都文化や和食文化に関する知識を有し、地域社会の変化に対応する的確な分析力を有している。

(思考力・判断力・表現力)

- ④ 文化に関する諸課題を解決するための実践的なコミュニケーション能力と発信力を有している。

(主体性・協働性)

- ⑤ 生涯にわたって自律的に問題意識をもち、社会に貢献するために他者と協働することができる。

教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)

日本文化学科では、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- ① 総合科目は、建学の精神を学び学習の基盤を形成するために、「ブツダの教え」「法然上人の思想と生涯」「総合基礎演習Ⅰ」「総合基礎演習Ⅱ」の4科目を必修科目とする。
- ② 基本科目は、幅広い教養を身につけ、多様な価値観を尊重する豊かな人間性を涵養するために、語学・スポーツ科学・人権・情報の科目を配置して必修科目とするほか、自然科学・社会学・人文学・キャリア形成等の科目を配置する。
- ③ 学部基幹科目は、日本文化の基礎的知識を修めるために、「日本文化総論Ⅰ」「日本文化総論Ⅱ」「国文学概論」「日本史概説」の4科目を必修科目とする。
- ④ 学部必修科目は、日本文化の専門的知識やコミュニケーション能力、問題解決能力を修めるために、「地域文化論」「京都文化論」「キャリア教育」「文献講読」「日本文化学演習Ⅰ」「日本文化学演習Ⅱ」「卒業演習」を必修科目とする。
- ⑤ 選択科目は、日本文化の専門的知識を基に、新たな文化の創造に寄与する分析力や総合的な思考・判断力を培うために、歴史文化、表現文化、京都文化、地域・和食文化、現代文化等の各科目に加え、関係の演習授業やフィールドワーク等実践型の科目を配置する。

学修成果は、シラバスで学生に明示する各科目の学位授与の方針との関連、評価方法、評価基準に基づき、筆記及び実技試験に加え、レポート、発表を含めた多角的かつ客観的な評価を行う。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

日本文化学科は、学位授与の方針に定める人材を養成するため、高等学校等における学習や経験を通じて、次のような基礎的な知識、思考・判断力、表現力等により主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付け、自ら課題を発見し、探求しようとする意欲ある者を受入れるものとし、多様な選抜方法を適切に実施する。

ア. 知識・理解

- ・ 高等学校等の教育課程を幅広く修得し、学科の専門分野の修学に必要な国語と、社会もしくは外国語の基礎的な知識を理解している。

イ. 思考・判断

- ・ 自ら学ぼうとする学修意欲を持ち、探求心によって身に付けた知識・技能を基に、論理的に考え、協調性をもって他者へ客観的に説明しようとすることができる。

ウ. 関心・意欲・態度

- ・ 日本文化を探究する関心を持ち、歴史、言語、芸術、食、観光など幅広い地域の文化を理解する意欲にあふれ、その課題解決に向けて主体的に探求し、最後まで取り組むことができる態度を有している。

エ. 技能・表現

- ・ 他者と積極的に関わることができ、他者に対して自分の考えを口頭・文章等によって表現することができる。